

読めない需要変動に対し、生産性や リードタイムを犠牲にすることなく対応できる

時間制約を活用した生産管理手法

– DBR 3.0 (仮称)

福岡:10/3(金)・大阪:11/27(木)で開催

こなし切れない程の注文が殺到したかと思えば、時間を持て余すときもある。
リードタイム短縮が重要だと感じていながら、**先行投入を止めることはできない**…

市場競争力を高めるためには、**フレキシブルな生産が必要であるが、現場の負担が増え、コストが上昇してしまっは元も子もない**…

- 納期の偏りが大きい – 非常に短い期間 (例: 月末1週間) に同じ納期のオーダーが集中する環境では、教科書通りにSDBRを適用しようとする、負荷の凸凹が一層大きくなるのが懸念される。
- 在庫生産 (MTS/MTA) と受注生産 (MTO) の混合環境において、どちらかのパフォーマンスを上げようすると、もう一方のパフォーマンスが犠牲になってしまう。
- 工場内の仕掛在庫は減り、リードタイムも短縮したものの、生産性指標は思ったほど改善していない。特急オーダーの投入による混乱が続き、次第にリードタイム短縮の動機づけが弱くなっている。
- 製品ミックスの変化によって制約工程 (CCR) が動き回るため、負荷コントロールが難しい。

本ワークショップでは、TOCに関心をお持ちの方だけでなく、既にTOCを導入して成果を収めた企業の方々に対しましても、“**導入した仕組みを強化し、更なる成果を実現する**”ための新しい解決策 – DBR 3.0 (仮称) の仕組み・効果を学んで頂くことができます。

タイムスケジュール

時間	主な内容
9:30-12:00	※ カードゲームを用いたシミュレーション形式で実践的に学びます。 <input type="checkbox"/> 既存の解決策 – DBRとSDBRから学べるもの <input type="checkbox"/> 納期を基点とした生産計画の特性と限界 <input type="checkbox"/> 生産フローの基本概念 – 制約とドラム、変動とバッファ
12:00-13:00	昼食・休憩
13:00-18:00	<input type="checkbox"/> 需要変動のジレンマを解く – リードタイムを犠牲にすることなく、顧客要求を満たす <input type="checkbox"/> “早過ぎる投入”の本当の意味 <input type="checkbox"/> “時間制約”によるフロー管理 – リードタイムは単に短くすれば良い訳ではない <input type="checkbox"/> ドラムを変える – 時間制約に基づくドラムとは <input type="checkbox"/> キャパシティの状態に応じて適時にワークを投入する仕組み – リリースバッファ <input type="checkbox"/> 目標WIPの設定方法 <input type="checkbox"/> 受注生産(MTO)/在庫生産(MTA)の混合バージョンへの拡張

ご参加頂きたい方

- TOCの解決策をすでに導入している企業の方
- TOCの導入に関心をお持ちの方
- 製造の管理責任者で、上にあげたジレンマを解消したい方

講師

2007年よりTOCコンサルタントとして、上場企業から中小企業まで幅広く、製造業を中心に10社以上の企業において、生産管理、サプライチェーン、プロジェクト管理の分野におけるTOC導入を支援し、リードタイム短縮と生産性向上を通じた収益改善の実績を上げる。

2008年から2012年まで、TOCの創始者ゴールドラット博士が設立した国際教育機関「ゴールドラットスクール」のメンバーに選ばれ、TOCの普及啓蒙、コンサルタントの育成を行う。

現在は、TOCPAの創設メンバーとして、TOC導入方法論の開発を推進し、海外のカンファレンスにも招聘される。

共著：TOC for Production Management / Goldratt Schools 2010
中小企業診断士/TOCPA Founding Member



株式会社ジュントス
TOCコンサルティング事業部
マネージャー
白土 竜馬

開催要領

福岡 開催

日程：2014年10月3日(金) 9:30～18:00

定員：10名

参加費：16,200円(税込)

場所：JR博多シティ会議室 10F J会議室 〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街1-1

大阪 開催

日程：2014年11月27日(木) 9:30～18:00

定員：10名

参加費：16,200円(税込)

場所：尼崎市総合文化センター 第1会議室 〒660-0881 尼崎市昭和通2丁目7-16

主催：株式会社ジュントス

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-2 博多SSビル4F

Tel: 092-412-7053 / Fax: 092-412-7054 E-mail: saruban@juntos.co.jp (担当: 猿喰)

お支払い方法について

- 本申込書にてお申込み後、1週間以内にお振込み下さい。尚、振込手数料はお客様のご負担にてお願い致します。
振込先：西日本シティ銀行 博多駅東 支店 (普通) 1533163 株式会社ジュントス
- お振込み後のキャンセル、返金はいかなる場合もお受けできませんので、予めご了承下さい。
- 交通費・宿泊費、昼食代はお客様のご負担にてお願い致します。

下記にご記入の上、FAX:092-412-7054 までお送りください

フリガナ お名前			
ご住所	〒		
ご所属(企業名、役職など)	TEL:		
	E-mail:		
ご希望の会場に○をつけてください	福岡	大阪(尼崎)	

個人・企業情報の保護 個人情報保護法に定義する個人情報に該当する情報は、当社で実施する事業で利用します。従って、当該個人情報の第三者への提供又は開示はいたしません。ただし、受講者の同意がある場合、及び法令等に基づき要請された場合には当該個人情報を提供できるものとします。また、企業情報、並びにアドバイスにより知り得た機密事項についても、同様に取り扱うものと致します。

読めない需要変動に対し、生産性やリードタイムを犠牲にすることなく対応できる

時間制約を活用した生産管理手法 - DBR 3.0 (仮称)

SDBR (Simplified Drum Buffer Rope) とMTA (Make to Availability) - これら二つのTOCの解決策は、多くの工場のパフォーマンス向上に貢献してきました。とは言え、どんな環境でもいつも期待した効果を出せるわけではない上、たとえ著しい成果を収めた工場も、継続的改善に向けて残された課題があるのではないのでしょうか？

- 納期の偏りが大きい - 非常に短い期間 (例：月末1週間) に同じ納期のオーダーが集中する環境では、教科書通りにSDBRを適用しようとする、負荷の凸凹が一層大きくなるのが懸念される。
- 在庫生産 (MTS/MTA) と受注生産 (MTO) の混合環境において、どちらかのパフォーマンスを上げようすると、もう一方のパフォーマンスが犠牲になってしまう。
- 工場内の仕掛在庫は減り、リードタイムも短縮したものの、生産性指標は思ったほど改善していない。特急オーダーの投入による混乱が続き、次第にリードタイム短縮の動機づけが弱くなっている。
- 製品ミックスの変化によって制約工程 (CCR) が動き回るため、負荷コントロールが難しい。

本セミナーでは、TOC導入に関心をお持ちの方だけでなく、既にTOCを導入して成果を収めた企業の方々に對しましても、**導入した仕組みを強化し、更なる成果を実現する、新しいアプリケーション - DBR 3.0 (仮称)** について、その概要をご紹介します。

アジェンダ

- 制約が動き回る
- 需要変動に対する現行の対処法に含まれる間違い
- MTOとMTAの混合環境における問題
- ドラムとバッファの本質
- “時間制約”を通じてフローを管理する

参加対象者

- TOCをすでに導入している企業の方
- TOCの導入に強い関心をお持ちの方
- 需要変動への対応にお悩みの方

講師

2007年より製造業を中心に10社以上の企業において、生産管理、サプライチェーン、プロジェクト管理の分野でのTOC導入を支援し、リードタイム短縮と生産性向上を通じた収益改善の実績を上げる。

2008-2012年まで、故ゴールドラット博士が設立したGoldratt Schoolsのメンバーに選ばれ、TOCの普及啓蒙、コンサルタントの育成を行う。

現在は、TOCPAの創設メンバーとしてTOC導入方法論の開発を推進し、海外のカンファレンスにも招聘される。



株式会社ジュントス
TOCコンサルティング事業部
マネージャー
白土 竜馬

開催要領

日程：2014年10月22日(水) 13:30~17:00
 定員：20名
 参加費：無料
 会場：BMT貸会議室(上野・御徒町)
 東京都台東区上野3-7-3 SDビル5階

主催：株式会社ジュントス
 8120012 福岡市博多区博多駅中央街7-2 博多SSビル4F Tel:092-412-7053/Fax:092-412-7054 Email: saruban@juntos.co.jp (担当:猿喰)

下記にご記入の上、**FAX:092-412-7054** までお送りください

フリガナ お名前			
ご住所	〒		
ご所属 (企業名、役職など)	TEL:		
	E-mail:		

個人・企業情報の保護 個人情報保護法に定義する個人情報に該当する情報は、当社で実施する事業で利用します。従って、当該個人情報の第三者への提供又は開示はいたしません。ただし、受講者の同意がある場合、及び法令等に基づき要請された場合には当該個人情報を提供できるものとします。また、企業情報、並びにアドバイスにより知り得た機密事項についても、同様に取扱うものと致します。